

## 自信を取り戻した日

第8回 言の葉大賞®

看護師として初めて配属されたのは、その病院の看護師の間で激務と恐れられていた消化器外科だった。ゆっくりペースの私が果たして務まるのか？何かの間違いであつてほしいと願った。

しかしその配属が変更される事は無く、過酷な毎日が始まった。先輩ナースは誰もが自信にあふれて仕事をこなしているように見えた。私といえども緊張と不安がつきまとい、先輩から厳しく注意を受ける事もしばしば。やめたいという強い気持ちを、何とか思いとどめる日々だった。

馴染めないまま半年くらいたったある日、この病棟に入院しているTさんが、奥様と面会されているのを見かけた。Tさんは胃がんの末期で再入院された患者さんだ。食事ものどを通らなくなり、輸液スタンドを押しながらやっと歩いているような状態だった。強面で寡黙なTさんが私は少し苦手だったので、急いでそこを通りすぎようとしたら、Tさんに呼び止められた。ちよつとドキドキしながら近づいた私の事を、Tさんは奥様にこう紹介して下さった。「この子だけなんだよ、僕の気持ちをわかってくれるのは」と。

びっくりした。なぜTさんにそんな風に言っていたかすぐには思いつかなかつた。看護師の仕事が好きで、やめずに頑張ってきた。患者さんの気持ちを少しでも軽くしてあげたいという気持ちが変わる事はなかつた。Tさんに対して、そういう思いで時々お話しもしていた事が、ちゃんと伝わっていたのかもしれない。この病棟に来て初めて認めてもらえた気がして、うれしくてしばらく涙が止まらなかつた。

Tさんとのこの出来事が、私の看護師としての自信を取り戻すきっかけとなった。この時Tさんからいただいたこの言葉は、今でも時々私の背中を押してくれる。